

発刊にあたって

国立大学における留学生教育は教育・研究を通しての国際協力・貢献だけでなく、わが国の国立大学における教育・研究そのものの活性化と発展に必須の要素との認識が高まりつつあります。このような状況の中で、センターが設立されて6年、専任教官が着任して4年が経過した今、これまでのセンターの諸活動をまとめて「センター年報第1号」として発刊できますことは、センター設立の当初より留学生指導主事としてその活動に微力ながら参画し、その後センター長の責を負うことになった者として、大きな喜びとするところです。

長崎大学外国人留学生指導センターは外国人留学生の修学および生活上のさまざまな支援活動を行うために昭和61年6月に学内措置により設立され、学生部の中の学生相談室にセンターの看板が掲げられてその活動が始まりました。とは申しましても、室内には机と電話が各1、椅子が少々というだけで何もなかったのですが、ここに新たに任命された千田哲資センター長、また櫻井克彦経済学部教授、福島邦夫教養部講師、石松淳水産学部講師、そして齋藤の4人の留学生指導主事が集まり、センターの活動について語り合ったことをなつかしく思い出します。

センター活動は昭和62年度から本格化し、まず、センターの存在を学内外に広く知ってもらおうということから、学生部にお願いして『学園だより』に「出島」欄（国際交流の欄）を新設し、かつ将来の復刻が容易であるようにと1ページのスペースを用意していただくことができました。編集、割付けはもちろん、留学生の寄稿文の添削などもすべて私達の手で行ったのも楽しい思い出となっています。

本年報に掲載しましたセンター活動記録をご覧いただければお判りいただけるように、これまでセンターの活動は非常に多岐にわたってきました。2年前に着任された牧山学生部次長がセンターの記録や保存文書をご覧になって、これほどの仕事をこれだけのスタッフで行ってきたとはと驚かれたほどです。

施設面では、平成元年8月には待望の専用施設が既存の建物を手直しして完成しました。131㎡の小さなフロアですが研修室、事務室、教官室などからなり、現在、留学生の勉強と憩いの場としてなくてはならないものとなっています。

さて、本センターの発展はこれまで多くの方々のご努力により支えられてきました。センター設立以来の運営委員、留学生指導主事、パートタイムの職員としてこれまでにセンターに勤務して下さった横田光子、金子美紀、桑原瑞恵の各氏、厳しい事務官定員削減の中で、センター活動の増大にともなう膨大な事務量の増加に対応してこられた学生部の皆様のご努力を決して忘れることはできません。また、これまで非常勤の日本語講師、英語講師、カウンセラーとして学内外からセンターの活動に参加し

ていただいた諸先生方は、決して十分とはいえない条件のもとで留学生教育に文字どおり心血を注いで取り組んでくださいました。財政的には平成元年度より本学経済学部同窓会・瓊林会よりのご支援も賜っています。これらの方々に対し、ここに心より感謝申し上げます。

さらに、これまでセンターに専任教官として在籍された上條、志柿の両氏が、教官としての仕事に加え、事務交渉・ボランティア的活動まで含めそれぞれお1人で3人以上の仕事をして下さいました。

上條 厚助教授は平成2年4月に専任教官として着任されましたが、日本語教育のほかに広報紙「めがね橋」、「留学生のための生活案内」の編集・発行にとくにご尽力くださいました。とくに日本語・中国語版の生活案内書は国立大学では最初の発刊でしたが、長崎大学の外国人留学生の多くを占める中国語圏からの留学生に好評のもとに迎えられました。これは上條助教授のご尽力によって初めて可能となったものです。上條助教授は平成4年10月信州大学教養部助教授として転出されましたが、センター在任中の氏のお仕事ぶりに深く敬意を表するものです。

また、平成元年2月に最初のセンター専任教官として着任された志柿光浩講師は満4年にわたってセンターに勤務されましたが、この3月末日をもって常葉学園大学外国語学部に転出されます。氏はセンターでの教育、運営、広報活動などすべての面で文字通り獅子奮迅の活躍をして下さり、あとがきで入江教授が記されているとおり本センター年報の発行ができたのもひとえに志柿氏のご努力によるものです。ここに心より感謝申し上げますと共に、お二人のこれからのますますのご発展をお祈り申し上げます。

本センターは4月より新しい専任教官を迎え、活動の一層の充実を図って参りますが、一日も早くセンターが省令施設となり、専任の事務官にも着任していただいて、より均衡のとれた発展が可能になることを願うものです。終わりになりましたが、本センターの設立と発展、また専用施設の確保などにご尽力をいただきました故保田正人元学長、土山秀夫前学長、千田哲資前センター長はじめ多くの方々から感謝申し上げますと共に、横山哲夫現学長はじめ学内外の皆様方の一層のご支援をお願い申し上げます。

1993年3月

長崎大学外国人留学生指導センター長

齋 藤 寛